

日本情報経営学会「異端と正統：経営革新の構図」研究プロジェクト

日本情報経営学会では、2008年4月より、2年間の研究プロジェクトとして、「異端と正統：経営革新の構図」研究プロジェクトをスタートさせることになりました。

このプロジェクトでは、多様な観点から議論されている経営革新について、IT経営の文脈に引き寄せる形で、さらに、「異端と正統」という視点から、既存研究とは異なるサムシングニューを導き出すことをねらいとしております。会員の皆様の積極的な参加を期待しております。

研究プロジェクトの問題意識

昨年度は、原田保を中心とする特定自由論代「SNSの可能性」において、SNSを巡る組織成員の心理的要因や社会的要因の重要性が議論されてきました。そこでの議論を発展させ、広くICTの活用を通じた組織活性化(さらには、経営革新)について、「場」や「異端」、さらには「トリックスター」などをキーワードに、新しい「組織認識論」の領野を開拓していくことを目指しています。とりわけ、近年とみに注目している「状況的認知」、「アクターネットワーク理論」などを援用しながら、ICT研究の方法論的発展に貢献できるような研究を展開していく予定です。

研究計画

- (1) 研究会：年に数回程度、研究会を開催し、プロジェクトメンバー間の研究交流を図る。
- (2) 研究成果：全国大会における特定自由論題の開催、学会誌の特集号などに加えて、積極的に研究成果を報告していきたい。

研究体制

研究拠点：多摩大学ルネッサンスセンター

連絡先

主査 原田 保

幹事 寺本佳苗(麗澤大学 大学院生) kter1211@cs.reitaku-u.ac.jp

出山 実(麗澤大学 大学院生) mideyama@reitaku-u.ac.jp